

年間第三主日

2014.1.26 7:30 ミサ

マタイ 4・12-23

お手元の聖書と典礼のリーフレットをご覧になると、一番下の囲みの中には聖書と典礼 2014 年 1 月 26 日とあって、上の囲みの中には、年間第三主日 A 年と記されています。毎週ミサの時に手にする聖書と典礼のリーフレットには、このように、その日の教会の典礼暦の日付が示されています。聖堂に入られて聖書と典礼のリーフレットを手にされたら、その日の表紙に目を向けることをお勧めいたします。それを眺めるだけでも、その日のミサの心の準備が出来ることでしょう。

三年周期の A 年当たる今年の年間主日のミサでは、今日からマタイ福音書に語られているイエスの足跡をたどるようにして、御一緒に福音のみことばを味わってまいります。今日のリーフレットの表紙には、カルペンティール神父様の版画が印刷されています。ガリラヤの湖の漁師であった最初の弟子たちにイエスが声をかけられた今日の福音に語られている場面です。イエスの最初の弟子となったのは、ペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネの二組の兄弟の四人ですが、この絵には五人の人物が描かれています。五人目の人物は、ヤコブとヨハネの父親のゼベダイかもしれません。けれども、絵の右側の、わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしようという今日の福音のみことばと合わせて味わうと、この五人目の人物は、最初の弟子たちに続く私たちを象徴する人物のように受け取ることが出来るかもしれません。教会の伝統においては、教会はペトロの舟にたとえられます。そのように考えるなら、この絵に描かれている五人目の人物を、私たちを象徴する人物と受け止めることもあながち的外れではないかもしれません。私たち一人ひとりもペトロの舟である教会に乗り合わせて、「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」という今日の福音のみことばによって呼びかけられているのです。

「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」という謎めいたことばは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」という、ガリラヤからはじまるイエスの宣教の開始を告げることばと関係しています。ヨルダン川での洗礼の場面において「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という、天からの声に指し示されたイエスがガリラヤのカファルナウムに来て住まわれたことによって、ガリラヤの地に天の国が近づいているのです。聖地の写真集などを手にとって見るなら、そこはガリラヤ湖周辺の丘陵地帯に広がる、花々が咲き乱れる緑豊かな美しい場所です。けれども、そこは同時に旧約のイザヤ預言者によって、暗闇に

住む民の地、死の陰の地とも呼ばれている土地です。そのガリラヤにイエスによって天の国が近づき、大いなる光が差し込んだと今日のマタイ福音書は告げています。イエスにおいてイエスによって天の国が近づいていることを知ったなら、その福音がもたらす光に心を向けなければなりません。それが悔い改めるといえることです。

ガリラヤの湖で漁師の仕事をして暮らしていたペトロとアンデレ、ヤコブとヨハネの兄弟に目を留められたイエスは、「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」と呼びかけてくださいます。そのようにして、彼らをイエスにおいてイエスによって近づいている天の国へと招き入れ、イエスとともに人々を天の国へと招き入れるイエスの道の同行者としてくださったのです。イエスの後に従って、イエスとともに生きることによって、ガリラヤの漁師であった彼らはイエスの弟子となって、イエスが指し示す天の国を見る者たちとなったのです。

これからの年間主日のミサの中で味わう福音書に語られることは、今日の福音で「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」とイエスに呼ばれた最初の弟子たちがイエスとともにいて見たこと聴いたことに基づいています。そしてそれは、同じイエスの光に照らされて歩む私たちにとって、象徴的な意味をもって語られている私たちにとっての福音です。とりわけ、今日の福音に語られている最初の弟子たちのイエスとの出会いの物語は、イエスを信じる者とされた私たちにとって、私たちのイエスとの出会いの物語でもあるのです。ガリラヤの湖の漁師であった最初の弟子たちの側を歩み行かれたイエスは、私たちの側にも足を止めてくださって、わたしたちにも呼びかけてくださったのです。「あなたがたを人間をとる漁師にしよう」。イエスがもたらされている天の国に向かってイエスとともに人々を呼び集める漁師にしようとして今日もこのミサの中でイエスは私たちに向かって呼びかけておられるのです。

今日も私たちに呼びかけておられるイエスの天の国の福音に心を開いて回心する恵みを願って、このミサをささげるとともに祈りましょう。今日のミサから始まるこの一週間の間、今日の閉祭の歌として歌う「主は水辺に立った私に声をかけた・・・」という聖歌を心のうちに口ずさみながら、今日の福音をより深く味わってまいりたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高